

## 首相の交代を外国メディアはどう見たか

### —ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長とのオンライン懇談会を開催—

2021年10月7日

講師：ピーター・ランダース ウォール・ストリート・ジャーナル  
東京支局長



経済広報センターは10月7日、ウォール・ストリート・ジャーナルのピーター・ランダース東京支局長を招き、「ウォール・ストリート・ジャーナルが見る新首相、そして今後の日本外交」と題するオンライン会合を開催した。会員企業などから約100名が参加した。

ランダース氏は、菅義偉前首相について、記者会見で慎重なあまりメモに目を落とすことが目立ったことを例に挙げ、「リスクを取らないことによるハイリスク」を負ってしまったと指摘した。これは、企業の広報対応にも共通する課題であるとともに、岸田文雄首相において改善されることに期待を示した。また、岸田首相が主張する格差是正などの「新しい資本主義」については、具体的な政策内容を見極める必要はあるものの、世論を反映させて「アベノミクス」を修正するのは、民主国家における姿勢の表れと説明した。

他方、外交について、岸田政権も、自由や民主主義などの価値観を他国にアピールする安倍晋三政権のスタンスを踏襲するとの見方を示した。そのうえで、9月初旬に岸田氏に単独インタビューを行った際に、日本版「マグニツキー法（海外での人権侵害に対する制裁法）」を検討する旨の発言があったことに触れ、ウイグル問題との絡みなどで日本企業が影響を受ける可能性があるとして指摘した。

質疑応答で米国政府における岸田首相の印象について尋ねられたランダース氏は、総裁選を戦った河野太郎氏に比べて地味とされているが、コンセンサス重視で政権を運営するとみていると述べた。

以上

---

一般財団法人

## 経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。